

「最初の台詞」からみる ジブリ映画の世界

また村がひとつ死んだ
行こう ここもじき腐海に沈む

風の谷のナウシカ

ナウシカの師である風の谷の剣豪ユバが、旅の道中で訪れた廃村にて発した台詞。1000年前に巨大産業文明を崩壊させた戦争の遺産である有毒の樹海「腐海」が未だ人類の生存をおびやかす世界で、ユバは腐海の謎を探求するために旅をしている。彼がナウシカと再会し風の谷に戻った夜、物語は動き出す。腐海を排除しようとする国々の思惑が絡み合う中、虫を愛し自然とともに生きようとする風の谷の姫ナウシカの勇気が救うものは何か。やがて彼女たちが辿りつく腐海の真相は、自然に対する畏敬の念を抱かせずにはおかない。

ユバ 主人公ナウシカの師

ジジ、今夜に決めたわ
出発よ！

キキ 主人公

魔女の宅急便

「今夜は西北西の風 風力は3晴れすばらしい満月の夜になるでしょう」……ラジオから流れる天気予報を聞いていた魔女の子キキが、修行の旅立ちを今夜と決め、黒猫のジジに宣言したときの台詞。魔女として生きる少女は、13歳の満月の夜にひとり立ちし、魔女の修行を積まなければならないのだ。家族と友人に見送られて意気揚々と出発したキキとジジだが、知らない大都会での修行は前途多難。唯一使える飛行魔法を生かして「魔女の宅急便」を開業するが……。千々にみだれる思春期の心のしなやかな成長を、いくつものやさしいまなざしが見守ってゆく。

はみだし
すてーじ

京都に来て、床ズレが2つできました。関東に帰りたいです。
⇒あらら……

(総・1 アポカリなう)
(こまめに姿勢を変えたりして、血流を良くしましょう！ お大事に；編)

緻密な作画、幻想的な世界観、圧倒的な構成力、人々の心に響く物語……今や世界的に評価されているスタジオジブリの映画を見たことのない読者はほとんどいないだろう。しかし、それぞれの映画の中の「最初の台詞」まで覚えている方となるとぐっと数が減るのではないか。そこで本記事では、4つのジブリ映画を「最初の台詞」に着目して紹介してみることにする。主人公あるいは主要な登場人物の最初の台詞から、どのような作品のテーマや世界観がうかがえるだろうか。

この世には目に見えない

魔法の輪がある

〈杏奈 主人公〉

思い出のマーニー

家族を亡くし養母に育てられている少女杏奈が、公園でクラスメイトの輪に入っていけない自分を俯瞰して発した心の中の言葉。自分を輪の外側の人間だと思い込む杏奈は、「私は……私がキライ」という言葉を作中で何度か呟く。そんな気分に呼応するように悪化した喘息の療養のため連れてこられた湖畔の町で、杏奈を待っていたのは、不思議な少女マーニーとの出会いだった。慈愛に満ちた青い目で杏奈を見つめるマーニーの真実を知ったとき、愛されることも愛することも忘れていた杏奈の心にある「まるごとの愛」が包みこむ。

おまえたちが
ぼくの死か

〈アレン 主人公〉

ゲド戦記

衝動的に父王を刺し殺し国から逃げ出した王子アレンが、砂漠地帯で獣の群れに囲まれたときに呟いた言葉。死を受け入れるような言葉だが、実際にはアレンは誰よりも死の恐怖に狂わされていた。若き王子の不安に満ちた心と、均衡が崩れ始めた世界の黄昏。アレンは通りかかった大賢人ゲドによって獣の牙から救い出され、共に旅をすることになる。国からも、自らの死に値する罪からも逃げ出した王子の心の旅路はどこへ向かうのか。旅する中で出会った少女テルーは彼に、死を恐れ不死を望むことは生からも逃げるのだと教える。

はみだし
すてーじ

運動不足で階段がきつい
⇒あらら……

(工・4 レース鳩)
(運動不足のために階段を上るのはいかがでしょうか？；編)